

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙 SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇		
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoyoCd=2294200536-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoyoCd=2294200536-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 10月 27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型のサービスである事に充分配慮し、これまで地域の方々と交流を図ってきた。新型コロナの影響で、これまでの様な交流ができなくなってしまったが、地域の方々には様子を伺いに来て下さり、地域参加の再開を心待ちにしている。これからも継続して大切にしていきたい。また、訪問診療・薬剤師による薬剤管理、看護師による体調管理など、医療の専門職との連携が密に行われている。職員・施設と入居者様が、上位者・下位者の関係にならない様に日々努めている。そこには基本理念とホーム理念に対する思いが込められており、より大きな家族として、地域で暮らし続ける様に、交流に気を付けている。本年も正月のどんと焼きや七夕での笹の提供をすることで、地域の方が植木の剪定やチラシで折ったゴミ箱やウエスを寄贈して頂いている、と考えている。これからはウイズコロナでコロナには気をつけながらも新たな交流が試されると思う。その時に何ができるのか、真剣に考える素養が備わっていると自己評価している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員はグループホームの特性を理解して、利用者本位の介護を行い、利用者はゆったり穏やかに暮らしている。子ども会の七夕の笹を事業所が取りに行き提供し、地域の人からチラシのゴミ箱が届いたり、ウエス、新聞紙を持って来てくれたり相互のつながりを継続している。管理者の異動があり、管理者は前任者が力を注いだ、地域に根ざした事業所を継承し、さらに新たな視点で事業所の運営が安定するように努めている。職員同士話しやすく情報共有がなされ、会議では多くの意見がある。事業所は、感染対策に力を入れているため、現在まで事業所内でのコロナ感染者は出ていない。利用者は、ストレスを発散できるよう近所へ散歩に出かけ、コロナ禍でも車中ドライブを計画実行している。事業所の周りには野菜や花が一年中手入れされ、利用者は収穫や成長を楽しんでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時や全体会議の始まり等の機会に ことある毎に唱和を行い、暗誦に努めている。また、新規入社職員には必ず理念の意味を時間を割いて伝える様にしている。	基本理念とホーム理念があり、基本理念は毎日唱和して、毎月の会議の時には両方の理念を確認し、支援の実践に繋がれる様にしている。ホーム内で各ユニットで話し合い、具体的内容の月次目標を設定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの感染防止から必要最小限に留められている。歩ける入居者の近隣散策の折りに顔を合わせた近隣の住民への挨拶を欠かさない様にしている。また、チラシで折ったゴミ箱やウエス等を定期的に寄贈して下さるご近所様も継続している。	コロナ禍で地域の行事が開催されず、地域住民との交流が頻繁にはできないが、施設の植木の剪定は地域住民が行ってくれ、事業所からは子ども会用の七夕の笹10本を提供している。チラシのゴミ箱やウエス、新聞紙も近所から差し入れて頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じくコロナ対策で希薄になっている面はあるが、七夕祭りの時に子供会に対して笹の提供を行っている。また、地域の避難訓練への参加を通して、近隣にこういう施設があることを知って頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催は継続しているが、いずれも書面開催となっているが、参加者からは必ず返事を頂いている。日常のサービスの取組や研修の内容を伝えている。	コロナ禍の感染対策のため、書面開催で行っている。事業所の報告を行い、意見書に返信を頂き、意見を載せて議事録を作成し再度送っている。以前の入所者の家族が地域サポーターとして参加、近所の薬局の薬剤師も参加するなど、意見も多く寄せられサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には中止の際の議事録の送付は行っている。介護相談員の訪問は中止されているが、令和5年の受け入れは可能であると返答した。	地域包括支援センターとは運営推進会議で意見を頂き、入居の紹介も頂いている。生活保護者の担当課の職員とも意見交換を行うなど、良好な協力関係を築けるよう努めている。行政の担当課とは年次報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をかかげている。身体拘束廃止に関する指針に基づき、リスクマネジメント委員会が全体会議の際に研修をおこなうなど、職員への周知徹底を図っている。	マニュアル、指針は整備され、委員会のメンバーは管理者と2階のリーダーと各ユニットの職員の計4名で年4回委員会を開催している。研修は年2回行っていて、1回目は身体拘束の基本を学び2回目はスピーチロック等の具体的な項目について学ぶ計画を立てている。	

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	表立った大きな虐待は勿論であるが、普段の言動が指示命令に陥っていないか、ミーティングで話し合う機会を設けている。更にチームケアを心掛け一人で抱えない様に注意している。特定の職員だけが関わる入居者はいない様に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護が関わっている入居者もいるので、職員には入っているだけではなく、なぜ必要なのかを必ず伝える様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は理解、納得される事を優先している。始めに契約ありきではない為、時間がしっかり取れる日程調整を心掛け、不安の払拭に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に新型コロナで家族が来にくい状況が続いているので、ちょっとした変化や来所の折りには要件のみのやり取りではなく、最近の様子を伝える様にしている。また、看取り期に入ったと医師から指摘のあった入居者に対しては、コロナ対策を施した上、少人数、短時間での面談を勧めている。実際になくなられた入居者の家族からは、感謝の言葉を頂くことができた。	家族には通信を利用して個人の日常の様子を担当職員が記入し、1か月に1回送付している。家族からは頻繁に電話があり、その時にも利用者の状態を話し、家族の質問の回答は職員皆で考えて返答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族からの要望があった場合は、それが実現可能かどうか、職員に考えて貰う事になっている。出来ないのであれば、なぜ出来ないのか、代替案はないのか、どうすれば可能になるかを検討してから家族に返答するようにしている。職員からの意見はミーティング時にカンファレンスを行い、吸い上げに努めている。	職員は管理者に気づいたことをよく話してくれ、職員間で情報共有ができており、職員同士も意見が言い易い風通しの良い環境ある。管理者は何かあった時に特定の職員を責めず、今後どうしたらいいかを話し合ってもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲の向上に繋がるものとして、資格手当、残業手当の他に1年に1回の昇給を行っている。休日も事前に確認し、希望する休みや外せない用事を行いやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員同士が意見を出しあい、協力してケアができるよう人材育成に力を入れている。また、個々のケアの実際の把握に努め、能力に応じた支援を行っている。入居者との相性の問題もあるが、上手くケアできない場合は他の職員が互いにフォローアップしている。外部研修の情報収集は欠かさず行い提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が開催されれば出席し、他職種の方々と意見交換を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は事前情報の収集に努めている。ケアマネや家族からの情報だけではなく、1度でいいからご本人様と会う様にしているの で、情報のみのやり取りだけで入居には至らない様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学時は管理者が対応している。一人の人物に情報が集まる事により、様々な印象が混ざらない様にすることで、家族やご本人の困っている事等を把握し、安心して入居できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活する中で要望されている事、できる事と出来ない事のアセスメントを大切にしている。できないからとすぐに手を貸すのではなく、工夫して自分にできる様になることはないか、考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に学び、共に支え、共に歩む」を理念に掲げ、一方が介助する側、もう一方が介助の必要な方という関係ではない事は職員に徹底している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問は風通しの良い玄関が基本になっているが、日頃の様子はホーム通信の他に身体状況の報告書に記載して、ご本人に身体的、精神的に変化があった場合は随時報告し、情報を共有できるように、コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年であればご家族のみならず、友人、知人も気軽に訪ねて頂いている。入居者は地域の方で知り合いも多い為、地域の行事に参加し関係の継続が大切と考えている。近年のコロナが惜しまれる。	地域の夏祭りは通年参加していたが、今年度は利用者の体調の問題で参加できなかった。地域行事に参加すると利用者は近所に住んでいた方が多いので、顔馴染みの方から声をかけてもらえる。敬老のお祝い品やお饅頭は近所の方が届けてくれるなど関係の継続が行われている。	

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や顔なじみに応じて、時に席替えを行ったり、共通で楽しめるイベントを開催したりして孤立する人がでない様に心配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時の長期間による関わりで得た信頼関係を大切に、契約が終了してからも必要な時に連絡を頂いている。相互に相談しあえる関係の継続を望んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行と共に意思の把握が困難な方もいるが、それも一つの個性として捉え、その人らしい生活が送れるように、入居者本位の暮らしを尊重している。	職員は利用者ファーストの姿勢があり、気づいたことや変化は申し送りノートに記入し情報を共有している。担当職員がモニタリングをしているため職員は観察力が養われ、アイデアを出し合ってチームで本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントは大切にしているが、実際に入居してからわからない事があれば、家族に確認をとる様にしている。ここでの生活は新しい事への適応が必ず必要になることから、少しでも心理的な負担にならない様に気にかけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態が継続して生活できる様に、リハビリ体操や屈伸運動を日々行い、できる事、できない事等本人の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はケアマネが作成するもの、ではなく職員一人一人が関わって作成するもの、という考えで、更新時には担当者がアセスメント表を作成し、全体会議の前のカンファレンスで職員全体でモニタリングを行っている。その事によって職員は実際に行うケアが理解できる。ご家族には面会時や電話で説明し意向を伺っている。	毎月の会議で、担当職員がモニタリングしたものを全職員で時間をかけてカンファレンスしている。職員からの意見も多くあり、介護計画書の総合的な援助方針の欄には細かい指示や注意点が書かれていて、職員が把握している。家族からは電話で意向を聴いている。	度々電話をかけてきてくれる家族の意見は汲み取っているが、コミュニケーションが取りにくい家族の意見は聞けていないので、意向を確認できるよう工夫を希望します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人単位で介護記録、排泄、食事量、水分量等を記入し、体調不良で病院受診などになっても、直に連携が図れる様にしている。日別単位ではないので、情報は追いかけてやすい。紙の記録を確認した上で、口頭での申し送りがある。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズが生じた場合は家族に相談しながら、他のサービスに柔軟に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の働き掛けにより、住民の方々が地域の行事参加受入、入居者の皆様を大切に下さり、豊かな暮らしの支援を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の関係の継続を大切にして、ご本人や家族の希望を優先している。これまでの掛りつけ医を継続される方もいる。訪問診察は月2回の定期訪問と往診が可能で、24時間体制で電話対応が可能。随時必要な医療の提供が受けられる体制が整っている。	入居前のかかりつけ医の受診を受けている利用者もいるが、ほとんどの利用者は協力医の往診を受けている。協力医は24時間対応で相談ができる。法人で契約している看護師の訪問が週1回あり バイタルチェックや傷、褥瘡の手当等行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、職員は日常の様子を看護職に伝え、特変のあった入居者は情報の送りを行っている。看護師は健康チェック、爪切り等の看護処置を行っている。必要であれば医療と直結している為、往診や薬、点滴等の処置が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は病院の担当看護師、相談員と入院時より連携を図り、早期に且つ円滑に退院ができる様に、病院、家族と話し合いを行い、安心して退院を迎えられる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には契約時に重要事項説明書にある「重度化した場合の対応に関わる指針」を読み合わせ、内容に基づき、容態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合いを行い、今後の方針を決めている。その上で看取りを希望された場合は本人の意思に沿いながら三者の連携を大切にしている。	契約時に重度化に対する指針について家族に説明している。体調変化時に、医師が家族に状態の説明をする。管理者は再度、重度化の指針を説明し、家族の意向や同意を得て、今後の対応を話し合い、支援に取り組んでいる。看取り経験のある職員が主になって全員で看取りの研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応が発生した場合は、職員全員が対応できるように、流れの説明、訓練を行い実践できている。消防署の書式「緊急搬送時の情報提供シート」や「患者基本情報シート」を記入し迅速な対応ができるよう、個人台帳で管理している。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震発生後の火災を想定して訓練しており、消防、町内会にも協力を頂いている。訓練では実際に火災が起こった際の手順を把握し、緊急連絡網でスタッフがいち早く周知できるように対策している。また、独自のミニ防災訓練は、貯水バケツの水の点検、防災用品のチェック、整理整頓を行っている。	防災訓練は年2回行っている。6月の1回目は火災想定のお知らせ、時間を計って避難、安否確認の訓練を行い、11月には消防署の指導で行う予定である。夜間訓練も行い、備蓄も委員会が中心になって準備、点検を行っている。災害の時には地域住民の協力も得ている。	災害対策の見直しを行っていて、リストアップしている途中であるが、水害に対する対応が不十分なので、再検討を希望します。備品や備蓄に関しても法人と話し合っ改善策を検討できるように期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者各自のADL、認知機能に差がある為、その方に合わせた声掛けをしている。出来ない事や失敗を責めず、自尊心を傷つけない様に寄り添い、励まし、時には褒めて誇りを失わない様にしている。常に受容・傾聴・共感を心掛けている。	各フロアーに、経験豊かなお手本となる職員がいるので他の職員はその職員の言動を参考にしている。現在、スピーチロックの対応について話し合い、振り返り見直しができるように努めている。また新入職員は2カ月間ベテラン職員の指導の元で学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴しやすい環境整備を心掛け、内容に応じては他人に聞かれない様に、居室で話を聞いたりする。言葉で表現できない場合は日々の様子や表情で察するように努めており、職員間で相談をして一人の判断にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の性格や個々の生活リズムを理解し、それぞれのペースに合わせた声掛けを心掛け、無理強いする事なくプランに沿った入居者様主体のケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一度、訪問美容にて髪カットを行っている。衣類は自分の好みの服を選べる自立支援に努め、できない方には本人持参の服から職員が同じ服装にならない様に支援している。また、メイクやマニキュアなど女性らしい支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューや写真を壁に貼り、時には献立を伝える事で、食べ物のお話が話題になり盛り上がる。食事が楽しみであることを心掛け、盛り付けにも気を付けている。	食材配送業者の献立と食材を利用している。配送された食材を利用者の好みの物にアレンジしたり、利用者が好きな麺類や味のついたご飯を取り入れて食を楽しめるように努めている。誕生日にはケーキの飾り付けをしたり、利用者も分担して、食器洗い、拭き、盛り付け等出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は入居者個人の状態に合わせている。嚥下機能が低下した方には専門職のアドバイスを聞きながら、ミキサーや刻みに対応している。水分の進まない入居者もいるので、常にお茶だけではなく、時に変化をつけている。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施している。自分のできる方には声掛けて促すが確認は欠かさない。舌苔のある方には舌ブラシを使用したり、痛みや義歯の調整等は訪問歯科で診てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをチェック表を用いて把握している。概ね2時間毎に声掛けに配慮しながらトイレ誘導を行っている。便宜、尿意のない方には環境に配慮しながら清潔の保持に努めている。	排泄チェックをし、個々のパターンを把握している。概ね2時間毎に声かけをして、トイレでの排泄を支援している。夜間はトイレに起きる人、紙おむつで対応の人、それぞれの体調を考慮して対応している。また、失禁された利用者には皮膚がかぶれないように職員は丁寧な処置を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車椅子入居者が多く、運動量に限りがあるので、薬によるコントロールは欠かせないが、排泄チェック表を使用しながら、医師に相談し過度の服薬にならない様になっている。始めに食事、水分、運動で排泄がない場合に留めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽の環境が入浴に適さない場合があるので、全員が浴槽に入れるわけではないが、入浴チェック表を使って、同じ入浴頻度になっている。また、拒否の強い方には特に声掛けに注意して、スムーズに入浴出来た場合の情報を共有している。	週3回の入浴を目標として現状は、週2回の入浴支援を行っている。現在湯船で入浴ができる利用者が少ないが、職員は工夫して支援を行い、好みの入浴剤やシャンプー、リンスを準備される方や入浴剤を使ってリラックスしてもらえるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを尊重し、日中居室で一人で過ごす時間も大切にしている。一方で閉じこもりや活動低下にならない様に、適時声掛けをし、メリハリのある支援をおこなっている。就寝時間は個人の就寝時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の管理は薬剤師がおこない、職員は服薬のみに集中している。薬は朝・昼・夕・眠前の薬を入れる色別のファイルを使用し、介助時には名前・日付を点呼して服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の残存機能と能力を把握し、その方にあつた役割を担って頂いている。お手伝いをして頂いた際には感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じられる様に支援している。また、季節を感じられるような手作りおやつやイベントを楽しんで頂いている。		



静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策でご家族との外出や地域行事等の外出はできていない。歩行可能な入居者の散歩や、季節を感じるためのドライブ等は企画して実施している。現在の状況の下で楽しめる支援をしている。	感染対策を取りながら、施設の周りを職員と共に少人数で散歩している。利用者によっては好みのコースが決まっています、それぞれに対応できるように心がけている。季節を感じる為のドライブはコロナ禍でも計画、実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金は管理者が預かり、責任をもって管理している。出納の際もご家族に事前に連絡、不明瞭な買い物が発生しない様にしている。お金の所持がなくても安心して過ごして頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話をかけたい」等の要望があった場合、ご家族に事前に連絡し状況確認、考慮して取次ぎを行う。また、頻繁に希望される場合は、安心して落ち着いて過ごして頂ける様声掛け支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は常に開放し、共有の空間のテーブル・床・手すり等は毎日次亜塩素酸で清掃を行い清潔保持に努めている。施設壁面には入居者様と一緒に作成した作品やイベントの写真、季節に合わせた掲示物を飾り、季節を感じて頂ける様にしている。	共有空間のテーブル、手すり、床等は職員が毎日、次亜塩素酸で清掃を行い、感染対策に努めている。利用者はできる範囲で、モップがけや新聞紙でゴミ袋を作るなど協力している。廊下や階段の壁面には利用者の作品、季節を感じる掲示物、イベントで楽しんでいる利用者の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを配置し、入居者様が集まり自由に過ごせる場所を設けている。また、自室で昼寝や読書、音楽鑑賞するなど、一人の時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前に使い慣れた家具や写真、仏壇等持ってきて頂いている。これまでの生活感を大切にし、落ち着いて過ごせる自分らしい生活空間が保てる様に配慮している。	備え付けのタンスのほかにカラーボックス、仏壇などを持ち込み、タンスの上には家族写真や趣味で描いていた油絵の作品を壁に飾るなど本人らしく落ち着いて過ごせるように支援している。利用者の動線を確保して配置しているので、すっきりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には充分配慮し、声掛け・見守りしながら、その人ができる能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には、過度な介助にならない様に配慮しながらも、安全面を確保できる様に、自立支援に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙 SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇		
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2294200536-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200536-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 10月 27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型のサービスである事に充分配慮し、これまで地域の方々と交流を図ってきた。新型コロナの影響で、これまでの様な交流ができなくなってしまったが、地域の方々様を伺いに来て下さり、地域参加の再開を心待ちにしてくれている。これからも継続して大切にしていきたい。また、訪問診察・薬剤師による薬剤管理、看護師による体調管理など、医療の専門職との連携が密に行われている。職員・施設と入居者様が、上位者・下位者の関係にならない様に日々努めている。そこには基本理念とホーム理念に対する思いが込められており、より大きな家族として、地域で暮らし続ける様に、交流に気を付けている。本年も正月のどんと焼きや七夕での笹の提供をすることで、地域の方が植木の剪定やチラシで折ったゴミ箱やウエスを寄贈して頂いている、と考えている。これからはウィズコロナでコロナには気をつけながらも新たな交流が試されると思う。その時に何ができるのか、真剣に考える素養が備わっていると自己評価している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時や全体会議の始まり等の機会に ことある毎に唱和を行い、暗誦に努めている。また、新規入社の職員には必ず理念の意味を時間を割いて伝える様にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの感染防止から必要最小限に留められている。歩ける入居者の近隣散策の折りに顔を合わせた近隣の住民への挨拶を欠かさない様にしている。また、チラシで折ったゴミ箱やウエス等を定期的に寄贈して下さるご近所様も継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じくコロナ対策で希薄になっている面はあるが、七夕祭りの時に子供会に対して笹の提供を行っている。また、地域の避難訓練への参加を通して、近隣にこういう施設があることを知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催は継続しているが、いずれも書面開催となっているが、参加者からは必ず返事を頂いている。日常のサービスの取組や研修の内容を伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には中止の際の議事録の送付は行っている。介護相談員の訪問は中止されているが、令和5年の受け入れは可能であると返答した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をかかげている。身体拘束廃止に関する指針に基づき、リスクマネジメント委員会が全体会議の際に研修をおこなうなど、職員への周知徹底を図っている。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	表立った大きな虐待は勿論であるが、普段の言動が指示命令に陥っていないか、ミーティングで話し合う機会を設けている。更にチームケアを心掛け一人で抱えない様に注意している。特定の職員だけが関わる入居者はいない様に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護が関わっている入居者もいるので、職員には入っているだけではなく、なぜ必要なのかを必ず伝える様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は理解、納得される事を優先している。始めに契約ありきではない為、時間がしっかり取れる日程調整を心掛け、不安の払拭に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に新型コロナで家族が来にくい状況が続いているので、ちょっとした変化や来所の折りには要件のみのやり取りではなく、最近の様子を伝える様にしている。また、看取り期に入ったと医師から指摘のあった入居者に対しては、コロナ対策を施した上、少人数、短時間で面談を勧めている。実際になくなられた入居者の家族からは、感謝の言葉を頂くことができた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族からの要望があった場合は、それが実現可能かどうか、職員に考えて貰う事している。出来ないのであれば、なぜ出来ないのか、代替案はないのか、どうすれば可能になるかを検討してから家族に返答するようにしている。職員からの意見はミーティング時にカンファレンスを行い、吸い上げに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲の向上に繋がるものとして、資格手当、残業手当の他に1年に1回の昇給を行っている。休日も事前に確認し、希望する休みや外せない用事を行いやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員同士が意見を出しあい、協力してケアができるよう人材育成に力を入れている。また、個々のケアの実際の把握に努め、能力に応じた支援を行っている。入居者との相性の問題もあるが、上手くケアできない場合は他の職員が互いにフォローアップしている。外部研修の情報収集は欠かさず行い提供している。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が開催されれば出席し、他職種の方々と意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は事前情報の収集に努めている。ケアマネや家族からの情報だけではなく、1度でいいからご本人様と会う様にしているの で、情報のみのやり取りだけで入居には至らない様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学時は管理者が対応している。一人の人物に情報が集まる事により、様々な印象が混ざらない様にすることで、家族やご本人の困っている事等を把握し、安心して入居できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活する中で要望されている事、できる事と出来ない事のアセスメントを大切にしている。できないからとすぐに手を貸すのではなく、工夫して自分にできるようになることはないか、考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に学び、共に支え、共に歩む」を理念に掲げ、一方が介助する側、もう一方が介助の必要な方という関係ではない事は職員に徹底している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問は風通しの良い玄関が基本になっているが、日頃の様子はホーム通信の他に身体状況の報告書に記載して、ご本人に身体的、精神的に変化があった場合は随時報告し、情報を共有できるように、コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年であればご家族のみならず、友人、知人も気軽に訪ねて頂いている。入居者は地域の方で知り合いも多い為、地域の行事に参加し関係の継続が大切と考えている。近年のコロナが惜しまれる。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や顔なじみに応じて、時に席替えを行ったり、共通で楽しめるイベントを開催したりして孤立する人がでない様に心配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時の長期間による関わりで得た信頼関係を大切に、契約が終了してからも必要な時に連絡を頂いている。相互に相談しあえる関係の継続を望んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行と共に意思の把握が困難な方もいるが、それも一つの個性として捉え、その人らしい生活が送れるように、入居者本位の暮らしを尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントは大切にしているが、実際に入居してからわからない事があれば、家族に確認をとる様にしている。ここでの生活は新しい事への適応が必ず必要になることから、少しでも心理的な負担にならない様に気にかけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態が継続して生活できる様に、リハビリ体操や屈伸運動を日々行い、できる事、できない事等本人の有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はケアマネが作成するもの、ではなく職員一人一人が関わって作成するもの、という考えで、更新時には担当者がアセスメント表を作成し、全体会議の前のカンファレンスで職員全体でモニタリングを行っている。その事によって職員は実際に行うケアが理解できる。ご家族には面会時や電話で説明し意向を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人単位で介護記録、排泄、食事量、水分量等を記入し、体調不良で病院受診などになっても、直に連携が図れる様にしている。日別単位ではないので、情報は追いかけていく。紙の記録を確認した上で、口頭での申し送りがある。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズが生じた場合は家族に相談しながら、他のサービスに柔軟に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の働き掛けにより、住民の方々が地域の行事参加受入、入居者の皆様を大切にして下さり、豊かな暮らしの支援を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の関係の継続を大切にして、ご本人や家族の希望を優先している。これまでのかかりつけ医を継続される方もいる。訪問診察は月2回の定期訪問と往診が可能で、24時間体制で電話対応が可能。随時必要な医療の提供が受けられる体制が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、職員は日常の様子を看護職に伝え、特変のあった入居者は情報の送りを行っている。看護師は健康チェック、爪切り等の看護処置を行っている。必要であれば医療と直結している為、往診や薬、点滴等の処置が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は病院の担当看護師、相談員と入院時より連携を図り、早期に且つ円滑に退院ができる様に、病院、家族と話し合いを行い、安心して退院を迎えられる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には契約時に重要事項説明書にある「重度化した場合の対応に関わる指針」を読み合わせ、内容に基づき、容態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合いを行い、今後の方針を決めている。その上で看取りを希望された場合は本人の意思に沿いながら三者の連携を大切にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応が発生した場合は、職員全員が対応できるように、流れの説明、訓練を行い実践できている。消防署の書式「緊急搬送時の情報提供シート」や「患者基本情報シート」を記入し迅速な対応ができるよう、個人台帳で管理している。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震発生後の火災を想定して訓練しており、消防、町内会にも協力を頂いている。訓練では実際に火災が起こった際の手順を把握し、緊急連絡網でスタッフがいち早く周知できるように対策している。また、独自のミニ防災訓練は、貯水バケツの水の点検、防災用品のチェック、整理整頓を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者各自のADL、認知機能に差がある為、その方に合わせた声掛けをしている。出来ない事や失敗を責めず、自尊心を傷つけない様に寄り添い、励まし、時には褒めて誇りを失わない様に対応している。常に受容・傾聴・共感を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴しやすい環境整備を心掛け、内容に応じては他人に聞かれない様に、居室で話を聞いたりする。言葉で表現できない場合は日々の様子や表情で察するように努めており、職員間で相談をして一人の判断にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の性格や個々の生活リズムを理解し、それぞれのペースに合わせた声掛けを心掛け、無理強りする事なくプランに沿った入居者様主体のケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一度、訪問美容にて髪カットを行っている。衣類は自分の好みの服を選べる自立支援に努め、できない方には本人持参の服から職員が同じ服装にならない様に支援している。また、メイクやマニキュアなど女性らしい支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューや写真を壁に貼り、時には献立を伝える事で、食べ物の話が話題になり盛り上がる。食事が楽しみであることを心掛け、盛り付けにも気を付けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は入居者個人の状態に合わせている。嚥下機能が低下した方には専門職のアドバイスを聞きながら、ミキサーや刻みに対応している。水分の進まない入居者もいるので、常にお茶だけではなく、時に変化をつけている。		



静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施している。自分のできる方には声掛けで促すが確認は欠かさない。舌苔のある方には舌ブラシを使用したリ、痛みや義歯の調整等は訪問歯科で診てもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンをチェック表を用いて把握している。概ね2時間毎に声掛けに配慮しながらトイレ誘導を行っている。便意、尿意のない方には環境に配慮しながら清潔の保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車椅子入居者が多く、運動量に限りがあるので、薬によるコントロールは欠かせないが、排泄チェック表を使用しながら、医師に相談し過度の服薬にならない様にしている。始めに食事、水分、運動で排泄がない場合に留めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽の環境が入浴に適さない場合があるので、全員が浴槽に入れるわけではないが、入浴チェック表を使って、同じ入浴頻度になっている。また、拒否の強い方には特に声掛けに注意して、スムーズに入浴出来た場合の情報を共有している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを尊重し、日中居室で一人で過ごす時間も大切にしている。一方で閉じこもりや活動低下にならない様に、適時声掛けをし、メリハリのある支援をおこなっている。就寝時間は個人の就寝時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の管理は薬剤師がおこない、職員は服薬のみに集中している。薬は朝・昼・夕・眠前の薬を入れる色別のファイルを使用し、介助時には名前・日付を点呼して服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の残存機能と能力を把握し、その方にあつた役割を担って頂いている。お手伝いをして頂いた際には感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じられる様に支援している。また、季節を感じられるような手作りおやつやイベントを楽しんで頂いている。		

静岡県(グループホームファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策でご家族との外出や地域行事等の外出はできていない。歩行可能な入居者の散歩や、季節を感じるためのドライブ等は企画して実施している。現在の状況で下で楽しめる支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金は管理者が預かり、責任をもって管理している。出納の際もご家族に事前に連絡、不明瞭な買い物が発生しない様にしている。お金の所持がなくても安心して過ごして頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話をかけたい」等の要望があった場合、ご家族に事前に連絡し状況確認、考慮して取次ぎを行う。また、頻繁に希望される場合は、安心して落ち着いて過ごして頂ける様声掛け支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は常に開放し、共有の空間のテーブル・床・手すり等は毎日次亜塩素酸で清掃を行い清潔保持に努めている。施設壁面には入居者様と一緒に作成した作品やイベントの写真、季節に合わせた掲示物を飾り、季節を感じて頂ける様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを配置し、入居者様が集まり自由に過ごせる場所を設けている。また、自室で昼寝や読書、音楽鑑賞するなど、一人の時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前に使い慣れた家具や写真、仏壇等持ってきて頂いている。これまでの生活感を大切に、落ち着いて過ごせる自分らしい生活空間が保てる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には充分配慮し、声掛け・見守りしながら、その人ができる能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には、過度な介助にならない様に配慮しながらも、安全面を確保できる様に、自立支援に努めている。		